



TITLE:

此頃小望遠鏡で面白い星

AUTHOR(S):

NK

CITATION:

NK. 此頃小望遠鏡で面白い星. 天界 1923, 3(30): 196-197

ISSUE DATE:

1923-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159874>

RIGHT:

此頃小望遠鏡で面白い星

N K 生

○楯座R 變光星

赤徑 18時43.2分 赤緯南5°48'

双眼鏡的變光星でヒゴフト Piggott の發見で分り易い所にある。變光は4.8等—9.7等で週期は71日等興へられて居るか不規則である。變光が仲々早いので極めて面白い星である。此の星は北冠座Rとせば双眼鏡を持つて居る方は總て觀測して頂きたい極大時には肉眼でもやられるがRの位置が楯座の星の雲にあり誤差が大きくなるから、成るべく双眼鏡の方が好い。双眼鏡乃至2時の望遠鏡所有者の爲めに圖を入れた。スケールの大きな方はボン星圖の一部で十等星まであり、光度は●が星と誤り易いので8.3等を8.3にしてあり原圖は A.A. V. S. O. のものを取つた。星の下に一が引いてあるのは二重星である。62の光度はHRによる。小スケールの圖は光度の大きな場合に使用する。(a, b は假名)

β 4.47等

δ 4.74

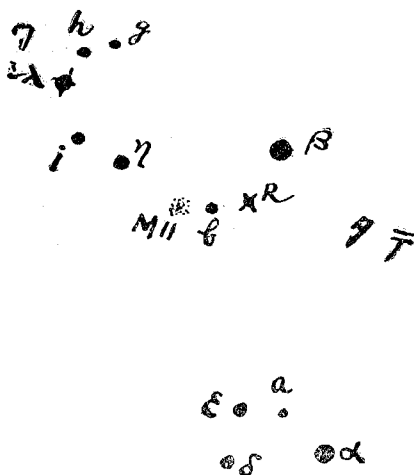
η 5.04

h 5.53

g 5.55

a 6.08

b 6.22



○M81. M82

渦狀星雲

赤徑 9 時50分

赤緯北 69°30'

二つの星雲が

約半度離れて居

るだけで一度に

二つ見る事が出

来る大きい明ら

い方が81で82は

淡く形も長い。

81は中心が非常

に輝いて居る。

アントロメダの

星雲よりはつき

り見える様な氣

がする。寫眞に

よるゝ何れも渦

状である。

○M 4 N. G. C. 6121 星團

赤徑 16時18.7分 赤緯南26°21'

蝸座αとσの南三角點にある大きな星團で双眼鏡で認める事が出来る。散開して居るが星は小さく小望遠鏡では其れほど美しくはない。少し長い。

○星群

赤徑 17時40分 赤緯北5°

位置は大體で不正確であるが蝸遣座βの北に當る。通常の星圖には出て居ない。肉眼で辛じて認め得る程度であるから双眼鏡で立派に見える。二時なれば立派な星團に見える。

○M20 N. G. C. 6514 星雲

赤徑 17時57.5分 赤緯南23°02'

此の星雲と南のM8と射手座の4とで三角形を爲し夏の夕肉眼で容易に見付ける事が出来る。4から少し離れて一群の星がある。此の群の東端に薄い星雲が見つかる。此れが有名な三裂星雲である。(Trifid Nebula) 4時で注意する。此の星雲の中央に二三の裂目を見る事が出来る。十時なれば随分明瞭である。讀者諸君はリックの寫眞で此の星雲は御承知と思ふがどの星雲でも寫眞ほどのものをものは見えない事を知つて觀測せられ、ば3時程度で認めたさいふだけで面白い事だらう。

○M8 N. G. C. 65-3

赤徑 17時58.8分 赤緯南28°23'

M20のすぐ南であり、肉眼でよく見える群があるから探すのは樂である。美事な散開した星團の上に輝いた星雲が重つて居るので小望遠鏡でよく見える。

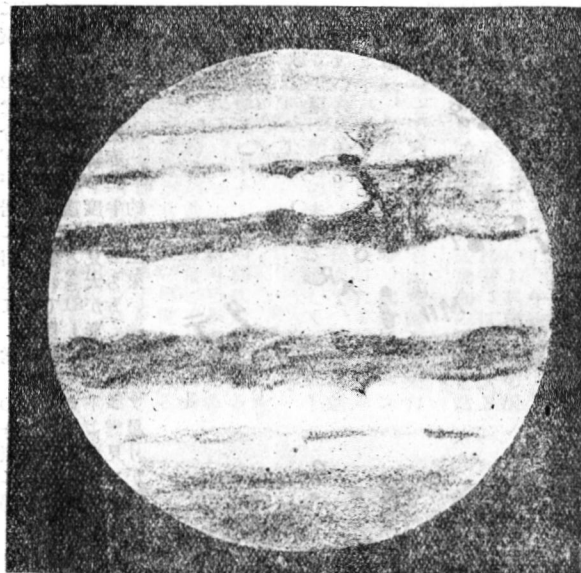
○N. G. C. 6633 (H.VIII 72) 散開星團

赤經 13時24.6分 赤緯北6°29'

蛇座にあつて肉眼でも見える。双眼鏡でもよく見え3時なら多数の星が見える。10時では實に壯大なる星團である。大きな群だから低倍率で充分である。此の星團のSFの邊に Buxendell が長週期變光星 T を発見した。

近頃の木星

今年は夏の間長く夕天で此の壯大なる星の観測が出来る。2 時を持つ人は50倍使へば明らかに二條の帯を認める事が出来る。近頃の帯の様子はどうか私の観測を基にして書く。圖は4月26日午後11時京都の10時反射望遠鏡を6時半に絞つて170 倍を使つ、畫いた圖である。大赤點が子午線上に来て居る。例の通り圖は南北反對である北半球



赤道附近の暗帯が最も著しい帯で太く且つ濃淡も強。此の帯の北に明るい帯を超えて細い著しい帯がある。間の明るい帯には色の面白いものが見え、これから北極まで二三の帯が有り全體としては暗く見える。赤道の明帯は全く多くの面白いものも無いが暗帯の邊になつた所には小光斑點がある。光點は此の外あちこちにちらばつて居る。

南半球

赤道南の暗帯は昨年と比し載るとき随分大きな變化を

して居る。此の暗帯は割に淡い。此の帯の南にも一つの暗帯が有るが此の間に大赤點がある。大赤點の位が昨年と比して差の大きな所である。大帯二暗帯が續いた様になつて居て此の裏の所に又二つに分れて圖の左側の帯に續いて居る。大赤點は圖の通り南側の暗帯に深く入込んで居る。今は大赤點の中に數箇の光點が有り仲々立派である。大赤點が有る爲に赤點の右のあたりの變化が各自轉により最も興味多い點である。今後此のあたりがどうなるか望遠鏡を持つ方は點の子午線經過を取つて充分研究されん事を希望する。

小遊星の現状

獨逸中央局の發行に係る Kleine Planeten によれば正式に登録されたる小遊星は1922 Mc までにて975 箇あり。不確定なるものも數十箇あれば1000 箇に達するは近き事なるべし。

米國變星觀測者協會 A. A. V. S. O. の現状

1921年11月より1922年10月に到る觀測の統計によれば同期間の觀測者は僅か72名にて觀測せる星數は372 箇で觀測數合計17021 箇の多數に登つて居る。發會されてより10年餘特に最近二三年に急激なる發展をなし歐米東洋の觀測者を集めハーヴァード天文臺を中心として活動せる同會の發展ぶりは全く驚くべきである。觀測者の多くは素人であり望遠鏡により得た總ての觀測は發會以來總計14萬の多きに達して居る。昨年度の最多數觀測者は Pelteir 氏で6 時により實に2334 箇であり次の Lacchini 氏は5 時により1856 箇を觀測して居る。小乃至中口径の望遠鏡が如何に活動せるか次の表を見られたし。

2時 2, 3時 8, 4時 6, 5時 5, 6時 4,
7時 10, 8時 4, 10時 1, 12時 2, 15時 1, 16時 1

同會は何國人に限らず變光星を觀測する人であれば入會を許可して居る(但し長週期變光星のみ觀測)